

欧州特許庁、欧州発明者賞2019のファイナリストを公表

2019年5月7日

JETRO デュッセルドルフ事務所

欧州特許庁（EPO）は、2019年5月7日付ニュースリリースにて、欧州発明者賞 2019（European Inventor Award 2019）にノミネートされた15のファイナリストを公表した。

2006年にEPOによって創設され今回で14年目を迎える欧州発明者賞は、科学技術の進歩及び経済の成長等に貢献するとともに日常生活に影響を与えた発明者又は発明者チームの創造性等を表彰するものであり、「産業」、「研究」、「非EPO加盟国」、「中小企業」及び「生涯功労」の5つの部門賞と、オンライン投票で一般の人々によってファイナリストの中から選ばれる「ポピュラー賞」とからなる。

本ニュースリリースによれば、2019年のファイナリストは、オーストリア、フランス、ドイツ、イスラエル、イタリア、日本、オランダ、ノルウェー、ポーランド、スペイン、英国及び米国の12か国からの各部門3・合計15の発明者又は発明者チームであるところ、「非EPO加盟国」部門のファイナリストとして、日本の吉野彰氏（会社：旭化成株式会社、発明：リチウムイオン電池及びその進化）がノミネートされている。

この欧州発明者賞 2019 の受賞者は、6月20日のウィーンでの授賞式にて発表される予定である。

なお、日本からはこれまでに、中村修二氏（2007年、青色発光ダイオード）、中西茂雄氏・山中巖氏（2007年、免疫抑制剤）、佐々木正一氏（2009年、ハイブリッド自動車の制御システム）、原昌宏氏・長屋隆之氏・渡部元秋氏・野尻忠雄氏・内山祐司氏（2014年、QRコード）、飯島澄男氏・小塩明氏・湯田坂雅子氏（2015年、カーボンナノチューブ）がノミネートされ、そのうち、原昌宏氏らのチームが「ポピュラー賞」を、飯島澄男氏らのチームが「非EPO加盟国」部門賞を、それぞれ受賞している。

－ 欧州特許庁のニュースリリースは、以下参照 －

[EPO announces the finalists for the European Inventor Award 2019](#)

（以上）